

竜王小学校 学校関係者評価書

平成31年2月12日（火）

竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成31年2月8日（金）午後3時30分～午後4時30分

会場：竜王小学校会議室

参加者：学校評議委員：篠原美代子, 碓井和幸, 小尾平明
森澤ひとみ, 小尾公夫（2名欠席）

PTA 本会役員：島田明人, 石合愛

学校側：校長 小尾一彦, 教頭 立川武, 主幹 内藤賢

I 学校側から提案された内容

学校評価実施結果の概要について

- （1）教職員自己評価の調査結果について
- （2）児童アンケート, 保護者アンケートの調査結果について
- （3）今年度の評価結果と過去2年間との比較と改善状況について（自己評価書）
- （4）今年度の学校評価結果から見えた課題と改善策

II 協議された主な内容

1 学校教育目標・学校経営・学校運営について

- （1）学校を楽しんでいる「児童の割合」に対して「保護者の割合」が少なくなっていること。
- （2）多忙化について, 学校が代わりに行うことが増え, 教員が児童と向き合う時間がなくなっていること。

2 学習指導について

- （1）家庭学習の実施状況が, 今年度は改善に転じたこと。
- （2）児童アンケート「先生は勉強をよく教えてくれる」について否定的回答が見られること。

3 生徒指導について

- （1）課題であった学習規律「竜の子15箇条」を守る意識が改善されてきたこと。
- （2）教職員と児童のコミュニケーション相関図で, 昨年度より肯定的評価が下がっていること。
- （3）不登校について, 本校の現状及び対応状況や関係機関との連携についての確認。

4 地域との連携について

- （1）PTA活動への参加について, A評価の割合が上がり否定的評価が減少したこと。
- （2）新学習指導要領で求められる地域との連携・協働を無理のない範囲で進めていくこと。

5 学校の特色に関して

- （1）日課表の工夫や効果的・効率的な授業により授業時間を確保すること。
- （2）あいさつの状況が, アンケート上ではやや低下してきていること。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

学校の中でやらなくてはならないことが増えている現状がある。そろっているべき児童の「はじめの一步」が様々なことでそろっていないため、学校が代わりに行っている。信頼関係を向上させていくためには、本来教職員の役割でないことを学校からなくし、教職員が児童に向かい合えるゆとりを確保しなければならない。

学校を楽しんでいる「児童の割合」に対して「保護者の割合」が少なくなっているのはなぜかを考えると、児童と親が会話をする余裕のなさ、コミュニケーションの時間の不足が推測される。皆が多忙の世の中であるが、工夫して親子がコミュニケーションを取れる時間を確保していきたい。

II 特 徴

1 学習指導について

昨年度まで、家庭学習をあまりしていない割合が増えてきていたが、今年度は改善に転じている。一方、児童アンケート「先生は勉強をよく教えてくれる」について否定的回答が見られることから、教職員は真摯に結果を受け止め、一生懸命な姿を児童に伝えられるようにする。しかし、多忙化で放課後の指導ができない現状や、教職員が元気でない児童も元気にならないことを踏まえ、まずは教職員がエネルギーを蓄え、児童の前で元気な姿を見せてほしい。

2 生徒指導について

昨年度まで課題であった学習規律「竜の子15箇条」を守る意識は、取り組みの成果から改善されてきた。本校の学習活動全ての基盤であることから、今後も重視したい。

一方、教職員と児童のコミュニケーション相関図で、昨年度より肯定的評価が下がっていることから、日頃から信頼関係を築くコミュニケーションを心がける必要がある。

しかし、学校の中でやらなくてはならないことが増えている現状がある。そろっているべき児童の「はじめの一步」が様々なことでそろっていないため、学校が代わりに行っている。信頼関係を向上させていくためには、本来教職員の役割でないことを学校からなくし、教職員が児童に向かい合えるゆとりを確保しなければならない。

3 地域との連携について

P T A活動への参加については否定意見が減少に転じていて、本会役員や専門部の意欲的な取り組みや協力意識が全体に広がったと感じられる。役員さんが楽しみながらやってくれていることが保護者に伝わっている。

新学習指導要領では、地域との連携・協働が求められるが、効果的・効率的な授業を行う中で無理のない範囲で進めたい。合唱コンクールへの参加は、児童に達成感を味わわせる上でとてもよい取り組みである。

4 あいさつの状況について

地域では、児童はよくあいさつしている。大人の方が下を向いてしまい、あいさつが返ってこない場合がある。大人があいさつしないと子どもがしなくなるので、学校と家庭・地域で大人があいさつを積極的に行うようにしたい。

III 今後の課題として意識されたいこと

保護者も教職員も多忙の中で、児童・保護者・教職員の信頼関係を築くコミュニケーションを深めていかななくてはならない。学校では児童と向き合う時間を確保するための日課表の工夫や効果的・効率的な学習を、家庭では学校任せにせず最低限できることをしていく意識が必要である。

※特記事項 なし

記載責任者 竜王小学校 学校関係者評価委員 氏名：小尾 平明 印